広報
こすど
発行所
小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行編集人　矢部藤三郎

# 変貌する社会に公民館はどう対応するか

## 第十二回 県公民館大会終る

第十二回県公民館大会は「農業基本法の制定、基幹都市造成、工場適正配置構想等によって大きく変貌する社会に、公民館はどう対応したらよいか」という主題のもとに七月二十六・七日の両日、高田市城南中学校で開催された。

参会した県下約六百名の公民館関係者は、折からの三十六・七度という酷暑にもめげず終始熱心に研究、討議がなされたことは全く感銘を深くした。

大会第一日の午前は開会式に引き続き表彰式が行われ、永年本会の指導育成にあたられた中田主事に、安沢会長より感謝状並びに記念品が贈呈された。

午後からは安沢会長の司会により、丸山前県会議長、榎木新大教授、五十嵐新潟市助役（渡辺市長代理）による「あすの新潟県はどう変るか」についてシンポジウムがあった。

榎本教授は本県の農業収入は一人当り九万円で他産業の従事者二十五万円よりはるかに低く、これが是正には農業規模の拡大と畜産、果樹栽培により、増産の研究と共に販売方法の改善をはかり高級野菜の栽培等もやり農業に自信と信念をもつ青年を養成することが、目下の必緊事であると語り、次に

五十嵐助役は新潟市を中心とする五十万都市の構想と中小企業の現状を語り、資本金五百万以下の事業所が八〇%をしめ従業員十人以下が八〇%であるが、大工場を誘致することにより、都市の造成を計るべきであると力説された。

最後に、丸山前会長は欧洲旅行の土産話としてデンマークの大規模農業の話し、スイスの農家の副業として発達した時計製造は、高度の技術を要求すると同時に、高い賃金が約束されること等、最近の見聞を語られ、最後に新潟県というよりはむしろ日本国策として推進しなければならないことは、社会福祉の増進と道路の改良であると力強く結ばれた。

その後の分科会にて

(1)都市部会では、中小企業地帯の青少年は特に問題が多いが、その原因の一つに大企業のような従業員の保健、娯楽施設が完備しない為だから、公民館の施設、設備等を充実して、それ等の要求をできるだけ満たしてやるよう努力すべきであるとの意見が強く、

(2)農村部会においては地域の実態を理解できる図表等を用意して、機会のあるごとにPRにつとめこれを青年に把握させること、また地域の総合産業計画に基いた産業教育を公民館でも実施する。尚訪問集会等を利用してより新しい農業経営の方法を理解する機会を多くつくることなどが話し合わされた。

(3)自由討議部会では、農業の近代化について各地域の指導機関に協力する態勢をつくること、都市部に於ては青年の組織化が非常にむづかしいが、それにはどうしたらよいか、町村合併後ところによっては公民館活動が大きく退歩したが、その失地回復には教育委員、社会教育委員、公民館運営審議委員等が一丸となり理事者に働きかけ理解を深め、法に示されている公民館の施設、設備を充実して町村の行政と密接した公民館活動を推進してゆくほかないとの結論に達した。

第二日も相変らずうだるような暑さの中で朝日新聞出版局長、団野信夫氏による「激動する農村と公民館人の役割」と題する記念講演があり、意義深い大会を終了した。

（宮崎）

# 参加こそ〝理解〟への近道

町民運動会が終ってから慰労会が開かれた。

飲むほどに、酒の酔いが回るほどに、座はにぎやかに談論風発、やがて「公民館批判」の声も出てきた。

その中で、最も考えさせられたものは「今のような公民館なら、なくてもよい。自分たちの出している税金を使っていながら、何をしているのかさっぱりわからない。それが公民館の役員の中にもいるのだから、公民館の役員選出の方法をかえなければならない」という意見であった。

公民館が、社会教育という広範囲で難儀な仕事をしていながら、一般の人からその存在が認められず、かえって邪魔者扱いを受けているのはなぜだろうか。役員が苦労しながらも「もの好きだから」とか、「根性がいい」などと周囲から白い眼で見られがちなのは、どういうわけか。

これにはまず公民館に対する一般の認識が徹底していないということがある。

公民館ができてから十年以上にもなるのに、未だに認識不足とは?…と首をかしげたくなろうが実際「公民館は自分と何の関係もない」と考えている人の案外多いことは否定できない。

それだから公民館の役員は、どこで、どのようにして選ばれるのかというようなこともわからず役員になっても何の為の役員で、どのような事をすればよいのかはっきりせず、ただ町民運動会や文化祭や芸能大会をやれば、それで自分の責任は果たせたつもりになる。

もちろん三つの大行事もやって悪いことはないであろうが、その行事は何の為にやるのか、ということ、だれの為に、何をねらいとしてやるのかというような事を常に考えねばならないと思う。

せっかくの催しが、かえって一般から敬遠されたり、喜ばれなかったりするのでは、逆効果になろう。

それにつけても、公民館の行事が年々衰微して行くような気がするのはどうしてであろうか。

今まで、ずっとやって来たのだから今年もやればよい、というような安易な態度で決められ、毎年ずる／＼とくり返されるだけではならないし、又それに関係する者の中には初めての人もいるのだから、趣旨の徹底には十分に気を配る必要がある。

さて、今後の行事としては文化祭と芸能大会が予定されているが、近年文化祭の会場は公民館関係のものは次第に少なく学校関係のもので占められるようになったし、芸能大会についても昨年度の反省では、開催の見通しは難しいようだ。

公民館が町の茶の間であり、その活動の目的が町つくりにあるならば、もっと一般に親しまれ、共に自分の住んでいる町について、お互が理解し合うように努力しなければなるまい。

単に役員に対して文句を言うだけでなく、一般も自ら進んでその活動に加わることにより、理解しようと努める心構えこそ大切と言えよう。

×　×

# 小須戸中学校増築工事

## 板井組に落札

小須戸中学校の二教室と準備室二つ階段室渡廊下を含めた一三三坪の増築については、去る三月小須戸町議会に於て約四〇三万円の予算を以てこれを建築することに議決されたのであったがその後における資材の値上がり等の事情によって七月三日の議会では九八万円の追加予算が成立し七月十八日指名競争入札の結果、小須戸町横川浜板井建設が四六〇万円で落札、工事完工まで百二十日以内の契約を以てこの工事を請負うことにきまり、現在着々と工事は進められております。

さて、教育委員会をはじめ学校当局並びに同校増築促進委員会等の一致した願いであるところのもう二教室(約六〇坪)を本年度内に建ててほしいという問題は、どうなっているのであろうか。

この問題については、岡田町長はじめ加藤議長以下、議員の皆さんの深い御理解により、町財政事情の見通しのつき次第予算化をはかり、工事を進めることになっているが、これが大体の見込みとしては八月中旬以降に臨時町議会を召集して議決する運びとなるのではなかろうかという観測が行われている。

その為にこの度工事を実施する一三三坪の建物を延長していく形となっている計画の、もう二教室の工事をやる際に、その接続面等にできる限り無駄の仕事の起こらないよう考慮が払われているということである。

われわれ町民はこの朗報を聞き、小須戸中学校教育の向上と適正なる学校運営上益するところが非常に大きいことを思い心から感謝すると共に、工事請負者板井組の献身的な御努力によって一日も早く立派にこの工事が完成することを期待してやまないものである。

# 増築工事

## いよいよ始まる

中学校長　野崎久太郎

中学校のピーク時と教育のなかみが変ったのでますます校舎が狭隘となった。

このことは前校長坂井先生が大変憂慮されて、そのPRに又その筋への御尽粋に敬意を表します。

当局も町財政上、極めて困難の問題にも拘ず計画をお進め下され、又職員生徒の熱望と教委、PTA、促委の並ならぬ御協力と町長さん始め議員その他関係者の御配慮により、**今年中**にいよいよ四教室が増築される明るい見透しがつき、八月二十四日臨時町会で決議を頂きました。先般めでたく地鎮祭もすみ、亦この程毎日の炎天の下で四教室の基礎工事が着工され、着々工事も進んでおります。

やがては木の香も新しい校舎も出来上り、竣功式が待ち遠しい喜びと共に当局、教委、議員、PTA促委に深甚なる敬意を表し、心から感謝しております。

教育課程(なかみ)の改正と科化技術教育の振興により、教育施設々備に殊に中学は**進学**と**就職**で伸びゆく中学生の将来が決定されるところです。

中学からすぐ高工専への直結の道もひらかれたし、又来る十月二十六日に全国学力一斉テストも施行されます。

「進みつつある青少年…」

やがては社会を動かす青少年の力を、私たちは信ず。

○　○

# 8.5水害

八月五日早朝からふり出した雨は一日中ふり続き県下に大きな被害を与えたが、当町でも次のような被害をこうむり、その額も多額にのぼり今後各方面の徹底的な対策がのぞまれている。

### 田地作付への被害（被害面積 7,390反）

| | 水稲 | | 大豆 | | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 面積 | 被害見込額 | 面積 | 被害見込額 | 面積 | 被害見込額 |
| 冠水3〜4日 | 70反 | 1,470 千円 | 1 反 | 8 千円 | 71反 | 1,478 千円 |
| 浸水2〜3日 | 3,700 | 22,200 | 4 7 | 232 | 3,746 | 22,432 |
| 計 | 3,770 | 23,670 | 5 0 | 240 | 3,820 | 23,910 |

### 畑地作付への被害（被害面積 455反）

| | 大豆雑穀 | | 甘しょ蔬菜 | | 果樹花卉球根盆栽苗木類 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 面積 | 被害見込額 | 面積 | 被害見込額 | 面積 | 被害見込額 | 被害見込額 |
| 冠水 | 83反 | 556 千円 | 299反 | 3,145 千円 | 73反 | 3,157 千円 | 6,858 千円 |

### 建築物への被害

| | | |
|---|---|---|
| 床上浸水一般家庭 | 31戸 | 402.5坪 |
| 〃　工場 | 3戸 | 1,775坪 |
| 〃　伝染病舎 | | 101坪 |
| 〃　県立病院 | | 一部 |
| 床下浸水一般家庭 | 13戸 | 270坪 |
| 〃　県立病院 | | 全体 |

### 水道施設浸水被害

| | |
|---|---|
| ポンプ室 | 2尺浸水 |
| 取水場 | 5尺〃 |
| 断水 | 5日午前10時より<br>6日午前10時半まで |
| 損害額 | 修理費他　15万円 |

# テレビ台数

## ぐっとふえる

・世帯数の三割に達すか・

弥彦山の頂上にテレビ塔が立ってから、はや三年。入り始めの頃は近所の子供達がわんさわんさとつめかけて、むげにもことわりきれず、困ったなんて話も、いつのまにやらそう聞かなくなった今日此の頃、一体小須戸町にはどれ位入っているのだろうか。次に今年の三月末の数字を示すと

| 市町名 | テレビ台数 | 世帯数 | % |
|---|---|---|---|
| 小須戸 | 540 | 2,071 | 26.1% |
| 白根 | 2,437 | 6,102 | 39.9 |
| 新津 | 4,641 | 10,860 | 42.7 |
| 新潟 | 32,107 | 69,998 | 45.9 |

それから五ヵ月更にふえているわけで、七月末中学生徒が調べた大体の台数を次に示してみよう。

| | 台数 |
|---|---|
| 町部 | 340台 |
| 横川<br>小向<br>水田 | 85 |
| 新保<br>竜玄 | 70 |
| 山の手 | 185 |
| 合計 | 680 |

これは概数だが、すでに世帯数の三割をこえ、それにしても「すさまじい」ふえ方である。やがて来る東京オリンピックのあたりが一つの台数の山とみる人もあり、二世帯に一台も夢ではあるまい。

# なぎさ

## できると思うが

町の新生活運動推進協議会で、時間励行を提唱して二カ年がすぎ、これを自分たちからと町のある青年会で実行にうつしなかなかのできで、やはり若い者はという声も耳にするようになったものです。

ところで当町では小須戸時間という昔ながらの悪い習慣があり、これをなくする一つの力ともなるだろうと関係者は望みも大きかったのです。

その後何十回かの青年会会議は続けられたのですが、夜七時四十分に会議が始められた前半頃にくらべ、近ごろでは会議を始めようとする八時になっても集まりがよくないということ。

これには農村の会員には言い分があるそうで、「自分達は田や畑にいて、時計などは持っていないし、うす暗くなるまで農作業をしているので、町の人のような会社や工場勤めのように時間きちんとはとてもむりだ」というのだそうだが。

では町の会員の言い分となると「いくら自分の田や畑でも仕事の量と時間はあると思う。実際農休日等話し合いで決めて実行している。だが自分がやってみないからかもしれぬが、もっと農家であっても自分の時間は作れると思う」というのであり、いずれにも軍配をあげられないのである。

いずれにしても自分達で集まるのですから自分達が集まりやすい時間ということだが、八時をすぎ、九時近いころからの会議は、一つの議題も打合せができないのではないでしょうか。

役員及び会員等で話し合い、新しいよい道を見つけたらと思います。

ところで話は一段飛躍するが〇〇会御招待、〇〇ショウとか〇〇品進呈いたします、というような会とか会議には定時前にはだいたい集まるようだ。こんな例と青年団活動とは比較対象はできるものではないが、何かを聞こう何かを見ようというように、青年会の会議も人の話しを聞こう、話そうということではやはり時間を作ることで、集まることができるのではないだろうか。

なんにつけても、昔の悪い面を新しい時代にそったものにすることが、いったんは青年団員の肩にもかかっていると思いますが、以前できた時間励行を実行するとともに今後青年団活動が時計の針のようにスムースに動いて、青年の為になるものとなってもらいたいものであります。（一町民）

柏大治著

## 小須戸風土記

十一月初め発行

本書を十一月初めに限定発行を予定しております。本書は小須戸地史について大いに役立つものと思います。部数も限定されておりますので、**十月十五日**までに申し込み下さい。

価額…二〇〇円くらいの予定
申込所…小須戸町公民館　電二七〇番

# 青年団活動とサークル制

矢代田 坂井得英

広報第一一四号の「青年団活動とサークル制に」を読んで私の所感を申上げます。

青年団活動の目的は若い青年集団であり、これを構成する青年は社会人としての教養を完全に体得しなければならない。（現社会は高度の人格形成を必要とする）と同時に相互教養の場とし、**人づくり**の集団として位置づけ地域のもつ古さ、矛盾をときほぐし、しあわせな部落、村、町そして世の中にする組織の目的をもっていることと思います。

また組織の性格としての青年団は、地域社会を基盤として成り立ち、地域の文化や交通の進歩と共に、侠義的のものから随時広義的のものに進んでゆくものであります。だから居住する地域が集団の基礎になり歴史的にも環境上からも、青年の活動を容易にし、必要も存在するのであります。

又青年団は多くの目的をもつ集団でありますので入団、退団は自由にでき特定の目的や思想は要求されないとともに、年令、職業、思想、学歴、趣味、環境などの相違点をも含まれている関係上、統一した活動がしにくい面もでておりますが、構成する団員の民主的な意志によって方向づけられることと思います。だから、あくまで団員個々の主体性を大切にし、一人一人の考えが集積、集約されその結果が青年団活動として仕組まれなければならないし、ここに大衆性の骨格としての青年団の性格が存在されるのではないでしょうか。

このような立場から見れば、今までの青年団活動は社会奉仕団であり、また与えられた青年団であったが為に、青年団の目的、性格がボカされて団員個々の主体性が重んじられずして、団員自身の活動が身につかず、又団員意識のうすさにもありますが、他人まかせ的な活動となったのではないでしょうか。

だが地域社会を基盤としておる関係上、どうしても社会奉仕せねばならないところもありますが筋道の通った社会奉仕であれば、さしさわりがないと思うのであります。

また活動や行事に於ても全員がかりだされ、好きでも嫌いでもないのに不本意ながら参加してきた面もありました。（嫌いだから参加せずでは集団活動ができない）

このような立場から脱皮する為に、町青年団においては今まで歩んできた組織を解体し、団員個々の主体性をもたせたサークル制に切り変えたことは、よろこばしいことであります。

ところで、さきにのべたように青年団活動の目的性格は、団員個々の主体性をもとにしたもので、サークル制にも結びつくものであり、その中において構成される団員による年令、職業、思想、学歴、趣味、環境等によって結びつくサークルが生まれ**好きこそものの上手なれ**のグループで運営ができ活動ができるわけであります。

この点一番はっきりとあらわれているのは体育部門の各クラブだと思います。またサークル制である以上は、各クラブにおいて多くの予算を願うことになりますので、今までより以上の予算が必要とされます。その為には会費を倍に上げるか、クラブ費というものをとるか、不足分を町から援助を受けるか、また団員個々の主体性をもち、あくまでも自分達の計画であり、自分達の事業であるという認識の出発であれば会費値上げもなんらさしさわりがないものと思います。

また この一・二年間はサークル制の準備期間とし基礎作りをじっくりとやってほしいものです。今までの組織を解体したうえのサークル制でありますし、困難な問題が多くだされると思いますがサークル制を良くするも悪くするも、全団員自身の責任でありますから、一人一人が裸で話し合いのできるように主体性を重んじ積極的に活動していただきたいものであります。

また町、部落としましても青少年育成強化のため町発展のため最大限に財政施設等を援助すべきであります。その結果として主体性を重んじた民主的なサークル制が確立されるはずだと、私は思う次第であります。

# 新生活運動を推進しよう

小須戸町新生活推進協議会ではさきごろ総会を開催して、次のことを決めた。

◉本年度新生活運動目標

(1)時間励行いたしましょう

(2)訪問集会を開きましょう

(3)公明選挙を推進しましょう

◉事業計画

(1)地域組織の結成奨励

各部落、町内において相談して たとえば「一番町新生活の会」「天ケ沢新生活の会」というような会を組織していただき、この運動をとり上げて行きたい

新生活運動は一般町民大衆の運動であるから役場や区長嘱託員など行政組織の世話にならないことが大切である

(2)指導者研修会の開催

主題を「訪問集会について」として指導的立場にある方々の参集を得て、年間数回開催の予定である。

(3)年始ぶるまいの廃止にかわる部落町内新年会の奨励

今年の正月は大雪であつたが一応この運動の効果にかんがみ、更に一層その徹底をはかり生活の合理化を期すること。

(4)広報宣伝活動

前記本年度新生活運動の三大目標徹底のため随時各種の方法手段による広報宣伝活動につとめること。

## アメ深しの顔が目に見える

### ―町民運動会終わる―

八月の空もよく晴れ渡った二十日（日）町公民館主催町民運動会は参加七チームによってあらそわれたが、祭りの用具作りなどで参加者も少いようだったが、それでも参加した老いも若きも、元気でレースを楽しんでいた。やはり秋の空にはかてず最終レース近くに小雨となり、児童レースでの小学校一年生などは、雨の中でお父さん、おねえさんに励まされて走っていた。入賞順位は次の通り

優賞　矢代田分館
二位　新保分館
三位　横水分館
四位　小須戸第四
五位　小須戸第一
六位　小須戸第三
七位　小須戸第二

## 豪雨の浸水に

### 婦人会の美挙

八月五日降りしきった豪雨のため一時病院前の堤防に土俵まで盛って安否が気づかわれ、西幸町二十三戸は床上浸水約四〇センチ位にもなり、避難命令で了専寺へ避難した家族もあった。町婦人会では六日朝早速被害を受けた西幸町やその近くの家庭に罐詰の御見舞いなどして大変よろこばれその美挙はほめたたえられた。

## 身心鍛錬

### ―児童の体験から

昨年夏、参加者の日記の一部を、のせましたが本年で二十五回を数える修養団主催少年少女臨海講習会＝会場＝新潟市立湊小学校に本町から二十七名の小学二年〜中学一年生が参加し、広く県下から集まった百九十五名の小中学生と五日間の共同生活を体験してきました。この講習会では大別すると三分野になります

一つは家庭生活における躾で、起床時から就床まで行事と呼ばれる精神修養と基本的なものの考え方から、身の廻りの処理食事作法等々、指導者の率先した生きた手本によって訓練されます。

二つには海水浴で子供たちの最も喜ぶ時間でもあり、全員が泳げるようにと真剣に厳格に行われます。おやつの飴玉も出ますが体を鍛える場として条件が揃えば午前午後の二回行います。

三つには学習や遊び等ですが、ほとんどがグループ活動になります。夜一日の反省を「心の日記」に記入し担任者の評を受けます。

グループの人員は十五六名で、みんなが仲よく人の長所を見出すようにして、何事も精一杯する事を願いとする「総親和総努力」の精神に貫かれた実践活動を通して生活しますから、子供たちも親元を離れた淋しさ、わがままのきかない厳しさも忘れて元気にやっておりました。

以上三十名を越える指導者、世話係中の一人として参加したI先生の談話により紹介。

## おめでとう

### 囲碁将棋大会終る

秋季町民囲碁将棋大会は二十六日公民館に於て開催成績は次の通り。

◎囲碁の部
一位　小川孝雄
二位　吉村敏衛
三位　山口新松
四位　須藤庄吉
五位　加藤富吉

◎将棋の部
一位　高橋義次郎
二位　五十嵐末一
三位　関川寅一
四位　高野松一
五位　川瀬六三郎

## ……旅行者募集……

## 秋の十和田湖めぐり

今回左記の日程により十和田湖めぐりを致しますので、参加希望者は申込み下さいますように。

日程

九月二十三日（土）
二三時九分矢代田発
新津乗換え
〇時四二分発
青森行に乗車
九月二十四日（日）
一大館にて乗換え
一一時四三分湯瀬着
湯瀬にて一泊（自由行動）
九月二十五日（月）
七時四七分発
十和田南　八時二一分
国鉄バスに乗換え
休屋にて中食
一二時十和田湖遊覧
船に乗船
一二時三〇分子ノ口
一四時子ノ口発
一八時浅虫着
浅虫にて一泊
九月二十六日（火）
一一時浅虫発バスにて青森へ　中食
一三時五分連絡船内見学
一四時四五分発大阪行に乗車
九月二十七日（水）
一二時四一分新津駅着
参加費…六、五〇〇円也
申込所…下記四カ所

植木歯科医　電三〇二
矢部歯科医　電一四一
銅甚商店　電二二一
梅久商店　電一七九

## 盛大に終った

### 第一回庭球大会

小須戸町庭球協会主催で、第一回近郷庭球大会（町長杯争奪）を八月の二十七日中学校テニスコートで開いたが、八十名もの多数の選手が参加、盛大に終了した入賞結果は左の通り。

一位　関根・関原組（小須戸）
二位　大野兄弟（白根）
三位　笠木・関根組（燕）
三位　田中・伊藤組（新津）

### ＝産業めぐり　その八＝

# 歩道舗装の王者

## アスファルト ブロック

協和道路資材ＫＫ　矢代田工場

今回は日本でもめずらしいアスファルト・ブロックというものを生産している協和道路資材株式会社矢代田工場を紹介しましょう。

本社は新潟市古町七に在り、工場は当町矢代田駅のすぐ前に協和道路資材矢代田工場が在ります

ここで作っておりますアスファルト・ブロックと一口にいっても、よくわかっていただけないと思いますが、これはコンクリートブロックと同じようなもので、アスファルトを原料としてブロックを作ったものです。

では一体アスファルトブロックは、いつ頃から出来たのでしょうか、これは約三十年前から製造されていますが、主材として砕石、礦さい、清砂、石綿および動植物の繊維等を用途により適宜配合して、これにアスファルトの加熱溶液を適量に混合したものを原料として一定の型枠に定量ずつ入れ、強力なる圧搾を加え堅じんな路面の一部を形成して製品アスファルトブロックとなります。

又ロックアスファルトという世界でも六カ所しかないという原鉱が金津地内より出ており、その発見者も当社の会長 森豊吉氏であり、こんな関係もあり価額は関東方面の他社にくらべて約五〇%である。

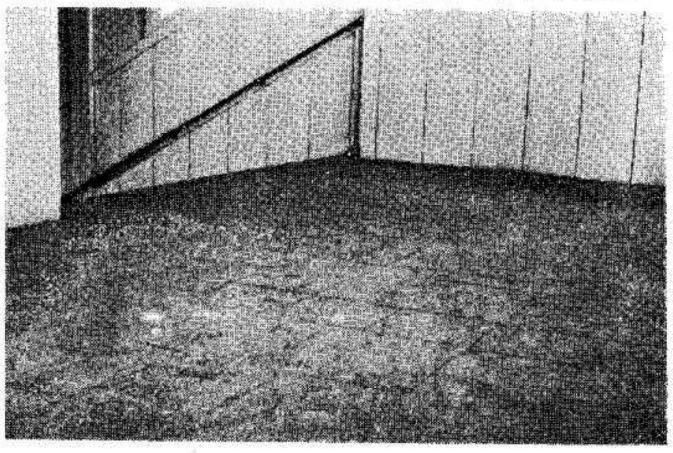
矢代田工場だけの生産量は現在日産坪数にして三十五坪（枚数にして一〇〇〇枚）といわれ 現在では生産がまにあわないありさまです。

また用途も多方面にわたり道路用では車道、歩道、橋梁。軌道用では汽車、電車の軌道に建築用にはプラットホーム、陸屋根、運動場、工場、倉庫、事務所、その他住宅一般の床面舗装等に用いられております。またこのように広い面に用いられていることは、次のような特徴があります。

一、堅牢で磨滅損軽微
二、品質、形状均斉
三、表面平滑でもすべらない
四、騒音がでない
五、耐熱性で温度の変化に強い
六、亀裂せず
七、無臭で衛生的である
八、施工改修容易で装置不要

等　数々あるのです。

今後このアスファルトブロックは歩道用としての用途を第一におき、その他一般にも用いられるようにしたいものであり重車道舗装材にもこの製品がもつ優秀性を大いに生かし、浅野専務以下二十五名が一体となって一層すぐれた製品ができ、より多くの生産ができるようにしたいものだ、と工場長は語ってくれた。



駅構内で使用のブロック

## 水害見舞御礼

八月五日来の水害に際しましては、町当局の適切な処置と各団体並に町民各位の御配慮のおかげをもちまして損障を最少限度に留め得ましたことを厚く感謝申し上げます。失礼ながら本紙をお借り致しまして、お礼を申し述べさせて戴きます。

西幸町一同

## 8月 購入図書

◇女性自身　源氏鶏太
◇奇術五十年　石田天海
◇破戒裁判　高木彬光
◇青汁の効用　遠藤仁郎
◇魚介歳時記　柳原敏雄
◇人喰人種の国　風見武彦
◇鶴姫やくざ帖　山手樹一郎
◇女の医学　婦人生活出版部
◇気まぐれ大名　江崎俊平
◇人事異動　源氏鶏太
◇黒人文学全集（笑いなきにあらず）ヒューズ　浜本武雄　訳
◇若い農民　新潟日報社　編
◇私は赤ちゃん　松田道雄
◇砂の器　松本清張
◇春姿からす堂　山手樹一郎
◇第三演出者　戸板康二
◇金と女と死　藤原審爾
◇青年の椅子　源氏鶏太
◇紅蜘蛛系図　江崎俊平
◇熊谷次郎（下）　富田常雄
◇侠盗秘帖　角田喜久雄
◇夢でありたい　舟橋聖一
◇考える葉　松本清張
◇振りむいたあなた　佐田稲子
◇通済美術ばなし　菅原通済
◇政治を見る目　西島芳二
◇日本憲法入門　大石義雄
◇進みゆく社会の少年教育　文部省

## おくやみ

自七月二十日
至八月二十一日

| | |
|---|---|
| 花見町 | 加藤キイ |
| 新保 | 石黒リタ |
| 〃 | 井上長右衛門 |
| 矢代田 | 木伏律子 |
| ウデコキ | 羽下源次郎 |
| 〃 | 岡村ナホ |
| 下中野 | 佐藤茂 |
| 出雲町 | 佐藤ミサ |

## お盆句会

小須戸俳句同好会

気安さの患者同志みなはだか　静堂
咲きさかる百日紅や老師住む　芳人
引越しや早や住みなれし火蛾の数　山奨
朝焼けの消えゆき夏の月白し　渓灯
ただ一人祖父は紋付墓詣り　水月
忍び寄る蚊のよろめきや秋立てり　杏水
吾子ひそと兎など飼い夏休み　虎秋
犬連れて墓参りに来る一家かな　香月
蜩や山路を急く白装束　一陽
妻も子も連れたち兄の墓洗う　竜朗
架高工事の飯場は寝たり天の川　流水

訂正

花永エスカレーター昇るのみ　旺資は誤植で
花氷エスカレーター昇るのみ　と訂正します